

<b>1 学校教育目標</b>
生徒一人一人の生きる力を高める授業の創造を通して、人と関わり社会生活、職業生活に参加する力を高めるとともに、目標に向かってやり抜く力を培う。

<b>2 本年度の重点目標</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○安全・安心に学べる教育環境を整備する。</li> <li>○生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実を図る。</li> <li>○進路指導とキャリア教育の充実を図る。</li> <li>○生徒の健全な成長を促し、自己実現を図る生徒指導の充実を図る。</li> <li>○保護者及び関係機関との緊密な連携を図る。</li> <li>○特別支援学校のセンター的機能の充実に努めるとともに地域との連携、理解・啓発を図る。</li> <li>○職員一人一人が力を発揮しやすい学校づくりを推進する。</li> </ul>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	働き方改革を推進する	超過勤務時間の縮減	超過勤務時間が月80時間以上の職員を0人に、年間360時間以上の職員を15%以下にする。	衛生委員会において具体的な対応策を検討・実施するとともに、同好会活動時間の見直し、業務の平準化・効率化をし、遅くとも19時までの退勤呼び掛け等に取り組む。	C	○12月末時点で、月80時間以上の職員は0人前年度7人。360時間(月割換算270時間)以上の教職員は、前年対比で40%から30%と改善が見られたが、目標の15%には届かなかった。 ○繁忙期によるが、退勤時間が20時を超える日があった。
	校務分掌の業務改善を図る	業務内容の可視化、効率化	分掌部、各種委員会の業務内容、担当者、年間スケジュール等を明確にし、教師用タブレット端末を活用し、全職員で情報を共有する。	分掌部や委員会等で業務分掌表を作成するとともに、Googleカレンダー、ドライブ等を活用し、業務の効率化やスケジュール管理を行うように工夫する。	B	○校務分掌の分掌表を作成し、業務の可視化や整理を行い、次年度に向けて業務分掌を見直した。 ○Googleドライブを活用し、共同編集による議事録作成やペーパーレスによる会議を実施し、業務の効率化を図った。
	安全・安心に学べる教育環境を整備する	職員の危機管理意識の向上	危機管理マニュアル、学校防災マニュアルに基づく訓練及び研修等を実施する。	各マニュアルの内容や緊急時の対応について、周知徹底を図るための時間を確保する。避難訓練、防災設備使用研修等を実施する。	B	○年度当初に危機管理マニュアルの説明、周知を行ったが、周知徹底までには至らなかった。次年度は定期的に確認する機会を設けたい。 ○避難訓練、防災研修、心肺蘇生法研修など1年通して充実した研修を行うことができた。
	本校教育への理解・啓発を図る	本校の教育についての積極的な情報発信	夏季休業中に学校説明会を5回実施するとともに、年間を通して教育相談を実施する。学校ホームページを活用し	本校への入学を希望している中学生及び保護者に学校説明会や教育相談で丁寧な説明を行う。ホームページの学校行事の	B	コロナ感染症拡大防止のため学校説明会は3回実施した。220人程の参加であったが、各階フロアを会場にZOOM配信をしながら丁寧な学校説明ができた。今年度180人程の教育相談があった。1

			た情報発信を行う。	欄に、行事毎に定期的に情報を精選して情報発信する。		件ずつ丁寧な説明と聞き取りを行った。
	I C T 機器の活用を推進する	生徒に応じた I C T 機器の活用	全学年の各教科等において I C T 機器を活用した授業実践を行う。	就学奨励費を活用して 1 人の端末を整備するとともに、授業における I C T 機器の効果的な活用について職員研修を実施する。	B	○各教科の授業で I C T 機器を活用した授業が展開されており、学校情報化優良校として認定を受けた。夏季休業期間中に I C T 機器の操作に関する講師招聘研修会を実施。引き続きニーズに応じた研修が必要である。
授業の充実	各教科等における授業の充実を図る	全体計画と年間指導計画のつながりを図る	高等部 3 年間を見通して各教科の内容を選択した全体計画に基づき、年間指導計画の見直しを行う。	教科部会や作業部会を各学年の縦割りで構成し、全体計画と年間指導計画のつながりを確認する場を設定する。	B	○教科会と作業部会を計 9 回実施した。時期に応じて、指導内容の検討、教科書の選定、年間指導計画の見直し等を行い、授業の充実を図ることができた。
	授業研究会の実施により授業改善を図る	各教科における授業改善	各学年グループ内で代表研究授業に取り組み、授業改善及び教師の指導力の向上を図る。	主体的・対話的で深い学びの勉強会を実施し、生徒の実態把握の共有を行った上で学習指導案を作成する期間を設ける。各学年のグループで単元を決め、学習指導案を検討、作成する。また、授業実践を振り返る機会を確保し、授業改善につなげる。	B	○各学年グループ内で生徒の実態把握の共有をし、新学習指導要領の 3 観点及び主体的・対話的で深い学びの視点に基づいて指導案の作成や授業研究会を実施することができた。 ○指導力向上においては、90%の職員がグループ毎に授業研究を進めていくことで生徒の実態に応じたポイントをおさえた授業の検討・評価ができたと回答した。
	生徒一人一人に応じた自立活動の充実を図る	自立活動における指導力の向上	自立活動に関する職員の知識や指導力の向上を図る。	自立活動に関する研修を実施し、他の学年の取組等を紹介したり小グループで情報交換したりできるように、研修方法を工夫する。	B	○8月に校内研修を実施した。自立活動の基本的な内容について理解を深めるとともに、生徒の様子を確認し合いながら課題を明確にし、9月以降の授業内容に生かすことができた。今後は、外部講師を招いた研修などを計画しながら、自立活動の指導の充実を進めていきたい。
キャリア教育(進路指導)	生徒が自らの進路や生き方について考えるキャリア教育の充実を図る	キャリア・パスポートの活用	キャリア・パスポートを活用して生徒のキャリア発達を促進する。	キャリア・パスポートを活用しながら生徒と対話的に関わり、生徒の成長を促すための系統的な指導を行う。	B	○キャリア・パスポートの手引きや書式を整え、活用を開始することができた。 ○今後は、円滑かつ効果的に活用できるように、引き続き、キャリア・パスポートの意

						義や活用方法を周知していくとともに、活用状況の確認や書式の整理を行う必要がある。
	生徒の希望や適性に応じた進路実現を図る	産業等現場における実習（現場実習）の充実	現場実習を通して生徒の希望や適性に応じた進路実現を図る。	生徒、保護者との個別面談や実習中の巡回指導や振り返り会等を丁寧に行い、現場実習先（進路先）とのマッチングを図る。	B	○感染症拡大状況に対応しながら、現場実習、校内実習を実施することができた。また、実習報告の方法を工夫し当該学年以外の生徒も報告の様子を見聞きする機会が増えたことにより、生徒が自分の進路を考えるきっかけとなった。 ○進路指導に関する系統的な指導内容と時期を提示するためのガイドラインを定め、1年生段階からの体験活動を含めた実習の内容や実施時期について検討を進めていく。
生徒（生活）指導	自己調整力を高める指導の充実を図る	自主的・自律的に行動し、自己実現に向けて努力できる生徒の育成	「生徒心得」や社会のルールについて、遵守する態度を促す。	社会のルールや生徒心得について遵守することの必要性を学年集会やLHRで話し、規範意識を高める。	B	○生徒の規範意識向上に一定の成果は得られたが、今後、より学年との協力を密にし、共通理解のもと指導にあたる体制づくりを進めていく必要がある。
人権教育の推進	教職員の人権意識を高め、人権教育を推進する	職員研修の充実及び保護者への啓発	教職員の人権意識や人権感覚を更に高めるとともに、保護者への啓発を行う。	職員を対象に年4回研修を実施する。また、講師を招聘し研修の充実を図る。さらに、人権通信を発行し、学校の取組を保護者に発信する。	B	○年4回の研修を実施することができた。講師招聘研修では、LGBTQ+をテーマにし、職員の知識を深めることができた。人権通信も2回発行し、学校での人権教育に関する取組を発信することができた。
	命を大切にすることを育む指導の充実を図る	自他の大切さを認める指導	自己有用感を高めるとともに、友達よさを認め、大切にしたり仲良くしたりすることができる。	道徳やLHRの時間を通して、仲間づくりを意識した取組を行う。また、日頃から生徒同士の関わりに目を配り、生徒に応じたよりよい支援を行う。	B	○道徳の年間計画に人権教育を位置づけたことで、全学年で計画的に学習を行うことができた。生徒同士のやり取りにも目を配り、友達を大切にす関わり方を身に付けられるようにした。今後も継続して生徒の言動に注意を配り、よりよい人間関係が築けるようにしていく。
いじめの防止等	いじめの未然防止に向けた取組の充実を図る	いじめの未然防止	いじめについての情報発信や取組の充実を図る。 いじめの早期	相談窓口等を設置し、生徒の気持ちや状況を把握する工夫を行い、相談	B	○生徒の相談しやすい雰囲気づくりについては、各担任のきめ細かな対応により実現できていた。明確な窓口を生徒に示すこ

			発見と対応に努める。	しやすい雰囲気作りを努める。		とができていなかったもので次年度は周知の機会を設定する。
	いじめ事案の早期発見と組織的対応を徹底する	いじめの早期発見及び組織的対応	いじめと疑われる事案発生時に状況を把握し、情報を共有する体制を整える。	いじめ対応マニュアルの手順を研修会にて示し、対処の方法について共通理解を図る。	A	○いじめが疑われる事案発生時、いじめ対応マニュアルの手順に基づいた迅速な対応ができた。次年度も早期に共通理解する場を設定する。
地域支援	他校と連携してセンター的機能の充実を図る	センター・オブ・センターとしての取組の充実	各特別支援学校のコーディネーターから課題等の情報を得て「センター会議」や「特別支援学校コーディネーター連絡会議」等で課題とその解決策を共有する。	定期的にコーディネーターと連絡を取り、情報を得る。課題については、スーパーコーディネーター等と定期的にオンライン等で課題解決に向けて検討する。	B	○巡回相談等を通して、各校のコーディネーターが作成する「月例報告」に記された「困り感」や「好事例」などを、Google クラウドルームを介して共有するとともに意見交換できるようにした。 ○「はばたきミーティング」をオンラインで開催し、各コーディネーターが抱える課題等について、スーパーコーディネーターや就学等支援アドバイザーを交えて検討することで、対応策等を明確にすることができた。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	地域との連携体制の充実を図る	地域と連携した学校の活性化	学校運営協議会を開催し、地域の関係機関等との連携強化を図る。	学校運営協議会を年に3回実施する中で、地域、教育、福祉、労働、家庭の各分野からの幅広い意見をいただき、教育活動に活かす。	B	○学校運営協議会を予定どおり3回実施し、各委員から様々な意見をいただいた ○近隣地区向けにパンやコーヒーの販売会など、喫茶サービス班を中心に、地域と連携した教育活動が実施できた。

#### 4 学校関係者評価

##### 【評価】

- 超過勤務時間について、月80時間以上は0人、年間360時間以上の教職員の割合が、昨年度40%→30%に10%改善している。「C」と評価しているが、昨年度に比べ努力している状況がうかがえる。
- ICT機器・スマートフォン等の情報ツールの活用は、今後重要になってくるので、SNS上でのトラブルやその対応方法などをしっかり指導した上で、今後も積極的な活用を行ってほしい。

##### 【課題】

- 教職員のアンケート調査結果を見た時に、「センター・オブ・センター」の項目に対して、「わからない」と答えた教職員が14.3%もいる。その他の質問に対しても「わからない」と答えた教職員がおり、学校の経営方針の周知を十分行う必要があるのではないか。

## 5 総合評価

### (1) 本年度の学校教育目標

#### ○生きる力を高める授業の実践

→高等部3年間を見通した全体計画に基づき、年間指導計画を見直しながら取り組んでいる。教科会と作業部会を計9回実施しながら、生徒の実態に合わせた教育活動の充実を図ることができた。また、主体的・対話的で深い学びの視点に基づいて指導案の作成や授業研究会を実施することができた。

#### ○人とのかかわり、社会生活、職業生活に参加する力の育成

→生徒一人一人に対して、各担任がきめ細かな対応を行うことにより、生徒のニーズに応じた現場実習の充実を図り、実習先を確保するとともに、職員、保護者への情報提供や研修の充実を図ることができた。

#### ○目標に向かってやり抜く力の育成

→心のきずなを深める取組や人権同和教育を通して、生徒の自己有用感を高め、集団の中での存在感を実感でき、その中で自分自身が貢献できる支援を行うことで、生徒自身が目標に向かってやり抜く力を高めた。

### (2) 本年度の重点目標

#### ○安全・安心に学べる教育環境の整備

→教職員が危機管理意識を持ち、十分な備えを行いながら教育活動を行うことができた。また、新型コロナウイルス感染症に関しては、感染拡大を防ぎながら、学校外や外部講師による講演などの教育活動を継続することができた。毎月、校内の安全点検を確実にを行い、安全・安心に学べる教育環境の整備を行った。

#### ○生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実を図る。

→3年間を見通した全体計画、年間指導計画を更新しながら、生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実を図ることができた。また、教育活動全体をとおしてICT機器の活用推進を図っており、学校行事等においても積極的に活用を図った。

#### ○進路指導とキャリア教育の充実を図る。

→生徒一人一人の希望やニーズについて、面談等を活用して把握を行いながら、生徒の就職先や実習先の検討を進めることができた。また、企業等の情報共有を教職員・保護者で図りながら丁寧な対応を行った。

#### ○生徒の健全な成長を促し、自己実現を図る生徒指導の充実を図る。

→いじめの未然防止や早期発見及び組織的でスピーディな対応を行うとともに、全職員で情報を共有し、共通理解を計りながら取り組んだ。また、SSWやSC等の外部機関を活用することで、生徒の相談体制についても強化を図ることができた。

### (3) 自己評価総括表

自己評価総括表では、「いじめ事案の早期発見と組織的対応を徹底」の1項目がA評価であった。「働き方改革の推進」については、昨年度より向上を図っているものの、目標値に届いておらずC評価である。「センター・オブ・センター」としての取組は、「わからない」と答えた教職員が14.3%の結果から、教職員への情報共有等の充実が必要である。

## 6 次年度への課題・改善方策

### (1) 働き方改革の推進による超過勤務時間の縮減

→会議の効率化、ICT機器を活用した校務の支援、教材の共有化等の工夫を行ってきたが、次年度も超過勤務時間の縮減に取り組んでいく。

### (2) ICT機器のさらなる活用

→生徒や教職員のニーズに合わせたアプリケーションソフトの導入やその活用に関する研修が必要である。

### (3) 各教科等における授業の充実

→高等部3年間を見通した各教科の全体計画や年間指導計画について、生徒の実態に合わせた更新や教育活動全般における教員の指導力向上を図っていく。また、「自立活動」の充実を図るため、外部講師を活用した職員研修を行い、特別支援教育に関する専門性の向上を行う。

### (4) 生徒の相談支援体制の充実

→いじめの未然防止や早期発見や組織的な対応等はスピード感を持って取り組んでいく。また、SCやSSWを活用しながら外部機関と連携した生徒の相談体制の充実を図るとともに、特別支援コーディネーターを中心とした保護者からの相談窓口について、周知を図る。なお、本校が担っている「センター・オブ・センター」の機能については、教職員へ情報の共有を行う。

